



酒井はやみ議員
(日本共産党
幕別町議員団)

問 町民と力を合わせて、ごみ行政の改善を

答 バイオマスプラントでの生ごみ処理を検討している

問 脱炭素社会の実現による地球温暖化対策を推進するため、本年2月に「幕別町地球温暖化対策実行計画」を策定した。この計画に基づき、温室効果ガスの削減を進めるとともに、自然環境を守り、クリーンで持続可能な循環型のまちづくりを目指して、町民と共に取り組むことが求められている。

その一環として、可燃ごみの資源化やプラスチックごみの削減など、ごみ処理の在り方を見直すことは町民の関心の高い課題であり、主体的に取り組むやすいテーマである。

また、持続可能なまちづくりに対する意識向上や町の活性化、イメージアップにもつながると考える。以下、伺う。

(1)ごみ処理の見直しを町民と一体となつて取り組むことで、温暖化対策のみならず、持続可能なまちづくりや町の魅力向上につながると思うが町の考えは。

(2)町民と協力して可燃ごみの資源

化に取り組む考えは。

(3)バイオガスプラントの導入についての進捗状況は。

(4)ごみアプリの導入についての検討状況は。

町長

(1)(2)ごみ処理の見直しは、町民と協力して資源化を図っていくことが有効であると考えているが、分別の徹底、資源化できない不純物の除去や再生品の品質の確保などの課題があり、慎重に取り組まなければならない。

現在、生ごみの資源化は食品残渣物等を資源とするバイオマスプラントでの処理を検討中であり、製品プラスチックは、現在のリサイクルプラザでの共同処理の枠組みを使いリサイクルすることができないか、構成市町村の担当者で組織する「環境担当課長会議」、「ごみゼロ検討委員会」において検討を進めている。

ごみ処理の見直しに関しては、発生抑制や分別の徹底のほかに、

焼却処理方式の変更などが考えられるが、現在建設中の新中間処理施設の処理方式の選定において、「環境への配慮」、「安全で安定した稼働」、「資源循環と省エネ・創エネへの対応」、「災害に強い処理システム」、「整備から運転・維持管理までの経済性」の五つの視点のバランスを重視して議論がなされ、現在の処理方法と同じ焼却方式を採用し熱エネルギーの回収によって再資源化を図ることとしたところである。

(3)現在、事業モデルを作成し、そこから発生する家畜ふん尿の活用を図るとともに、家畜ふん尿以外の食品残渣物等を活用した際のバイオメタン発生量を推計し、それらバイオメタンの活用方法と事業収支の試算を行い、事業可能性についてさまざまな角度から検討しているところである。

また、環境省において、地域脱炭素に関する専門的な知識を有する方を、「脱炭素まちづくりアドバイザー」として登録し、その専

門家を年間6回程度地方自治体に無償で派遣する制度を実施しており、町として応募し、本年11月から専門家の派遣を受けている。

専門的なアドバイザーを受けながら、事業計画、収支、事業スキーム等の精度を高め、事業可能性の判断を行っていききたい。

(4)令和7年3月1日運用予定の「幕別町公式LINE」において、ごみの名称を送信すると、人工知能がごみの分別種別をお知らせしてくれる「チャットボット」機能を整備する。さらに、利用者の居住行政区を登録することで、ごみ収集日の自動通知に加え、大型ごみの申込みをオンライン化する予定としている。

再質問

ごみの減量化と資源化の目標に照らして進捗状況と課題は。

答

令和5年度の資源リサイクル率の実績は34%で、目標値に比べて5ポイントの減となっている。

バイオマスの中で食品残渣を家畜ふん尿と一緒に処理できないかということは、今まさに検討中であり、ごみの分別の徹底や生ごみの収集方法などの課題と併せて検討を進めていきたいと考えている。